

SAPP_RO



障がい福祉の仕事をしてみたい!と思ったら…

社会福祉法人 北海道社会福祉協議会

北海道福祉人材センター

福祉人材無料職業紹介所

TEL / 011-272-6662

北海道福祉人材センター 検索



〒060-0002

札幌市中央区北2条西7丁目1番地 かでる2.7 2階

※月曜日～金曜日9:00～17:00(受付は16:30まで)

北海道 労働局

ハローワーク札幌

TEL / 011-562-0101(代表)

ハローワーク札幌東

TEL / 011-853-0101(代表)

ハローワーク札幌北

TEL / 011-743-8609(代表)



北海道ハローワーク ホームページ

検索

※開庁時間:月曜日～金曜日 8:30～17:15

《発行》札幌市保健福祉局障がい保健福祉部障がい福祉課
〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目 TEL011-211-2938 FAX011-218-5181
令和7年(2025年)11月発行



さっぽろ市
01-F04-25-2076
R7-1-130

SAPP
RO

社会と福祉を支えるプロフェッショナルへ

共に生きる 私のしごと



札幌市

目 次



- 障がい福祉の現状 ————— P1
- 障がい福祉サービス種別紹介 ————— P2~3
- インタビュー記事【訪問系】 ————— P4~5
- インタビュー記事【通所系】 ————— P6~7
- インタビュー記事【入所系】 ————— P8~9
- インタビュー記事【児童福祉系】 ————— P10~11
- こんな資格が役に立つ! ■よくあるQ&A ————— P12~13



あなたの力を障がい福祉の未来へ

このパンフレットは、障がい福祉の現場で働く職員のインタビューを通じて、障がい福祉の仕事の「魅力」をより多くの方々に発信することを目的に作成しました。

この分野で働くことは、障がいのある方の希望や可能性を広げると同時に、あなた自身も大きく成長できます。

このパンフレットをきっかけに、「障がい福祉の仕事」に興味を持ち、職業選択の一つとして考えていただければ幸いです。

福祉は、出会う事例すべてが異なり、他の誰もいないあなたにしかできない支援を実現する、やりがいに満ちた分野です。あなたもこの分野で一緒に働いてみませんか。



札幌市障がい福祉課

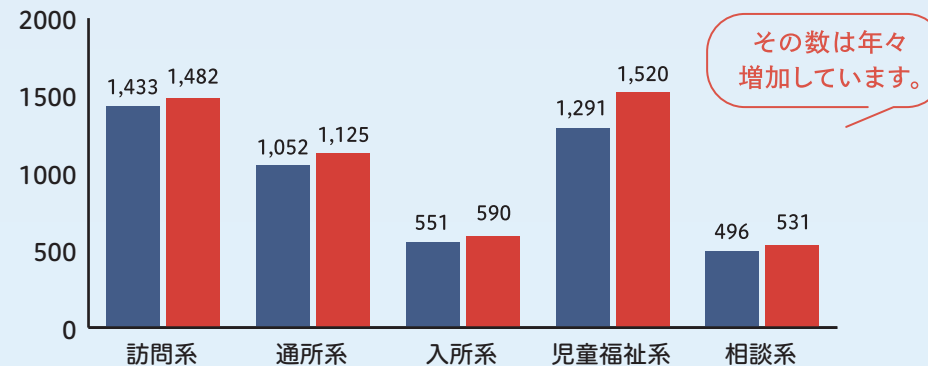


障がい福祉の現状



札幌市の現状は?

札幌市には、障がいのある方々を支えるために様々な障がい福祉サービス事業所があり、多くの方々がやりがいを持って働いています。



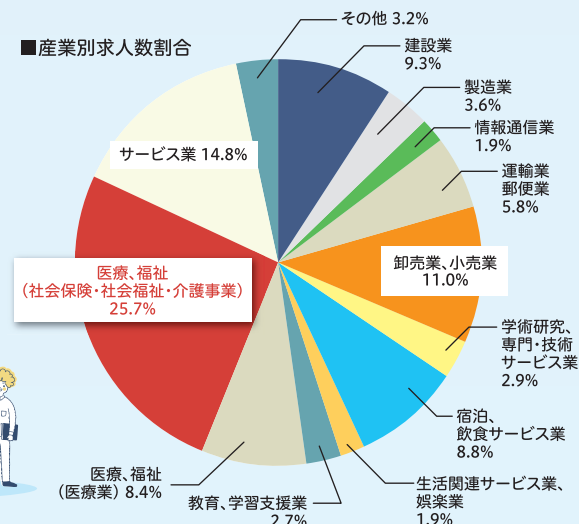
障がい福祉サービス事業所数(各年度4月の事業所数を計上)

■ 令和6年 ■ 令和7年

求められる多くの人材

「障がい・福祉」は産業別で分類すると「医療・福祉(社会保険・社会福祉・介護事業)」に含まれます。

求人数の割合は全体の中で最も高く、多くの人材が求められていることがわかります。





障がい福祉サービス種別紹介



幅広い支援方法で
障がいのある方を支えています。



訪問系

居宅を訪問して在宅生活を支援します

- ・居宅介護
- ・重度訪問介護
- ・同行援護
- ・行動援護
- ・自立生活援助



通所系

創作的活動の提供や訓練、
働くことへの支援を行います

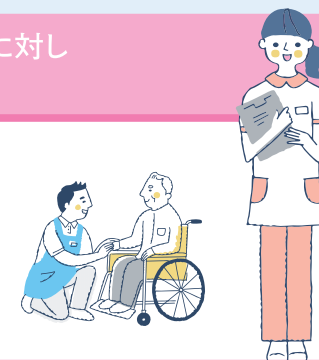
- ・生活介護
- ・自立訓練
- ・就労移行支援
- ・就労継続支援(A型)
- ・就労継続支援(B型)
- ・就労定着支援
- ・就労選択支援



入所系

施設等に入所している方に対し
支援を行います

- ・施設入所支援
- ・共同生活援助
- ・療養介護
- ・短期入所



児童福祉系

児童に対し指導や訓練、
さまざまな体験を提供し支援します

- ・児童発達支援
- ・放課後等デイサービス
- ・福祉型障害児入所施設
- ・医療型障害児入所施設
- ・居宅訪問型児童発達支援
- ・保育所等訪問支援



相談系

サービスを適切に利用するための
計画や相談等の支援を行います

- ・計画相談支援
- ・地域定着支援
- ・地域移行支援
- ・障害児相談支援



訪問系

すず き だい き

鈴木 大輝さん

社会福祉法人 札親会

居宅介護事業所
ライフサポートあんりー

「行ってみたい」「挑戦したい」を一緒に叶えたい



障がい福祉事業の仕事を選んだきっかけ

元々はネットショップの店長をしていましたが、25歳のときにその会社を退職しました。退職後、次の仕事を考える中で、ずっと「人と関わる仕事がしたい」と思っていたんです。そんなとき、自宅近くの事業所で障がい福祉のスタッフを募集しているのを見かけ、興味を持って応募しました。実際に働き始めると、さまざまな利用者さんと接する中で学びや発見が多く、自分にとっても成長の場になっています。この仕事に出会えたことは、自分の目標ややりたいことを形にできる良いきっかけになりました。

主なスケジュール(1日)

8:30	出勤・スケジュール確認・ミーティング
午前	外出支援
12:30	休憩(1時間)
午後	外出支援 事務作業(報告書作成、他の事業所との 予定確認、予定表、計画書の作成等)
17:30	退勤

仕事のやりがい、魅力

失敗することもあります。チームで振り返って次につなげ、うまくいった時の達成感は大いですね。仲間と苦労を乗り越えた時の一体感も、この仕事の魅力です。利用者さんの「行きたい」「やりたい」を一緒に叶え、笑顔の間近で見られるのは本当に嬉しい瞬間です。ご家族から「こんな笑顔は初めて見た」と言ってくれたことも励みになります。また、景気に左右されにくく安定した仕事であることも大きな魅力。

日々の支援を通して臨機応変さや先を読む力が身につく、常に学びながら自分自身も成長できる、やりがいのある仕事だと感じています。



仕事内容

サービス提供責任者として、現場の監督的な立場で働いています。普段は、障がいのある方の外出や通院、日常生活のサポートをお手伝いしています。例えば、一緒に体育館や公園でウォーキングしたり、映画館や動物園へ行った際の貴重品管理や受付の支援を行ったりします。また、必要な方には身の回りの介助もしています。

通院支援では、受付の補助や医師・看護師の説明を正確にご家族に伝えたり、ご本人の思いを代弁したりすることも重要な仕事です。さらに、居宅介護では、部屋のお掃除や調理など、生活全般のサポートも行っています。

経験しておく大切さ

学生時代、「何でも挑戦しておけば良かった」と感じています。利用者さんと同じで、例えば食堂に行くと、食べたことのないメニューは選ばないんです。カレーを食べたことがない人はカレーを選ばないし、自動販売機でもコーラしか飲んだことがない人は、他のジュースに手を伸ばさない。人は経験の中からしか選ばないんですよね。だからこそ、私たちは活動の幅を広げてもらうために、いろんな経験を提案するようにしています。

私自身も学生の頃、もっといろんなことに挑戦しておけば、今の支援に活かせる経験がもっとあったかもしれないと感じています。

今後の目標

障がい福祉の魅力は、利用者さんの「できないこと」を補うだけでなく、「やってみたい」「挑戦したい」という気持ちを大切にできることにあります。その中で、たとえ失敗しても、それを一緒に受け止め、次につなげる支援こそが成長につながると感じています。

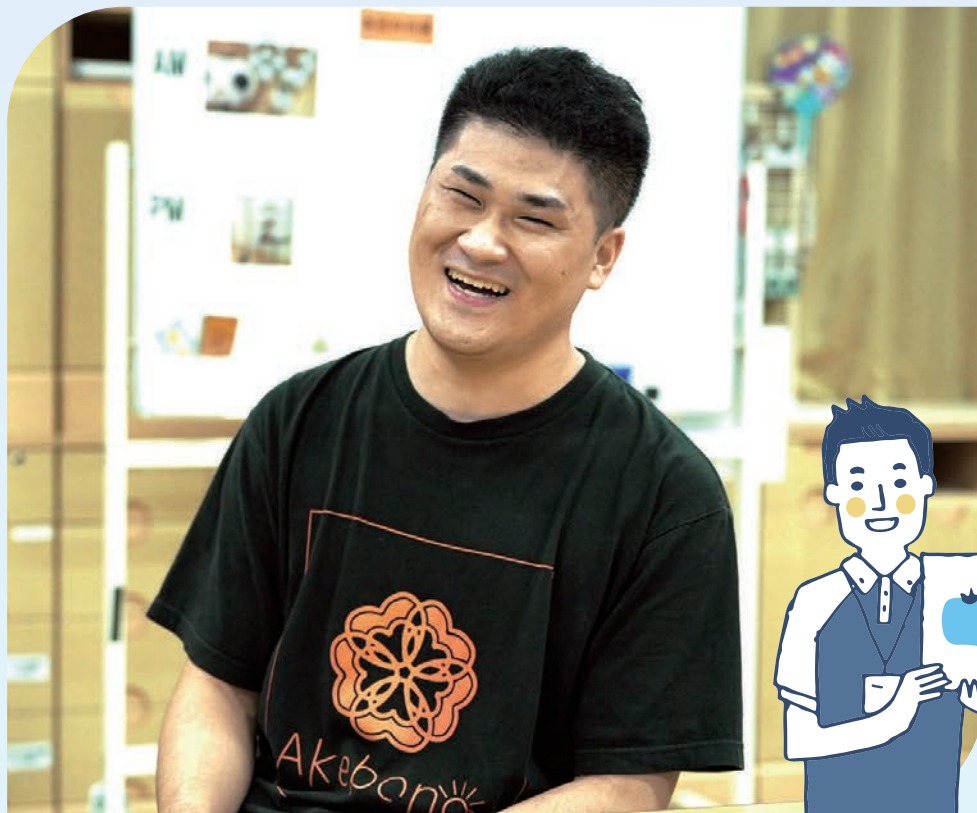
私は、こうした「失敗する権利」を尊重しながら、利用者さんが自分らしく生きられる環境を広げていきたい。将来的には、自分の理想とする支援を形にした事業所を立ち上げ、仲間と共に学び続けながら、誰もが安心して挑戦できる場をつくるのが目標です。

通所系

よこ みぞ り く
横溝 里玖さん

社会福祉法人 楡の会
生活介護事業あけぼの

利用者さんの笑顔が、わたしの成長につながる



障がい福祉事業の仕事を選んだきっかけ

もともと「人の役に立つ仕事がしたい」という思いがありました。
進路を考える中で、両親や高校の先生に相談したところ、「福祉の仕事が向いているのでは？」と勧められました。
自分でも調べてみると、支え合いながら人の生活をサポートする福祉の仕事に魅力を感じ、「この道に進みたい」と思いました。
その思いから社会福祉学科へ進学し、卒業後障がい福祉の世界に入りました。

主なスケジュール(1日)

8:45	出勤
午前	朝の送迎 レクリエーション・昼食の介助
12:30	休憩
午後	午後の活動 帰りの準備・排泄介助・帰りの送迎 事務作業
17:15	退勤

仕事のやりがい、魅力

やっぱり一番は、利用者さんの笑顔を見る瞬間ですね。最初は緊張していた方も、だんだん打ち解けてニコッと笑ってくれると、「やっていてよかった」「って心から思います。ご家族から「あけぼのに通っていてよかった」と言ってもらえたり、普段あまり外出されない方と一緒に遠出して笑顔を見られたときも、すごくやりがいを感じます。さらに、人との関わりを通して相手のことをもっと知りたいと思うようになり、毎日新しい発見や学びがあります。職員同士や利用者さん、ご家族との関係も良く、安心して働ける環境があるのも魅力です。行事やレクリエーションがうまくいったときの達成感もあり、この仕事ならではの喜びを日々感じています。



仕事内容

主な仕事は、利用者さんに日中活動としてのレクリエーションを提供することです。また、食事や排泄などの日常生活のサポートも行っています。

外出支援では、企画から実施まで関わることもあり、利用者さんが安心して過ごせるように、日々のちょっとした変化にも気を配りながら接しています。

一人ひとりに合わせた関わりができるのが、この仕事の面白さだと感じています。

成長したと感じる点

もともと人見知りな性格だったのですが、利用者さんのご家族とお話する機会が増える中で、少しずつ克服できたと感じています。

送迎時や電話対応などを通して利用者さんのご家族と打ち解けるうちに、自然とコミュニケーションの取り方が身についてきました。

今では、自分から話しかけたり、相手の気持ちを考えて会話できるようになったと思います。また、以前は事務作業のパソコン業務が苦手でした。周囲の得意な職員から指導を受けた結果、現在では一通りスムーズに業務に取り組んでいます。

今後の目標

今後は、まだ担当したことのない行事にも積極的に挑戦して、経験を重ねながら、より幅広く利用者さんをサポートできるようになりたいと思っています。仕事をする中で大切にしているのは、利用者さんに優しく接し、危ない行動には怒るのではなく「こうしたら危ないからね」と丁寧に声をかけることです。

こうした姿勢を意識しつつ、自分自身も成長し、後輩たちにとって仕事への向き合い方や取り組み方のお手本となれる存在になりたいです。利用者さんやご家族の笑顔を支えながら、自分も学び続けていきたいですね。

入所系

こ ば や し ま い
小林 真衣さん

社会福祉法人
北海道ハピネス
障がい者支援施設グリーンハイム

一人ひとりに向き合い、“学び”を重ねる仕事



障がい福祉事業の仕事を選んだきっかけ

高校生の時に、軽い気持ちでヘルパーの資格を取る研修を受けたのが最初のきっかけでした。もともとおばあちゃん子で、祖母がデイサービスを利用していたこともあり、介護の仕事には興味があったんです。

卒業後は老人施設で働いていたのですが、ある時、障がいのあるお子さんの支援で放課後等デイサービスをお手伝いする機会がありました。その時に、いろいろな事情を抱える利用者さんやご家族と出会い、「こういう道もあるんだな、支援をしたいな」と感じたんです。そこから、障がい福祉という分野に改めて興味を持ち、今の道に進むことを決めました。

主なスケジュール(1日)

9:00	出勤、引き継ぎを受ける
午前	担当利用者の朝の介助 (着替え、オムツ交換など)
12:00	食事の配膳、食事介助
13:00	昼休憩
午後	余暇活動 (テレビ鑑賞、カラオケ、散歩など)
	おやつ介助、夕食の準備 (食事の配膳、食事介助)
18:00	退勤

仕事の大変さ、やりがい

障がい福祉の仕事で大変だと感じるのは、利用者さんへの対応がうまくいかない時です。障がいの特性は一人ひとり違うので、同じ声かけが通用せず悩むこともあります。でも、試行錯誤の末に「こうしてみよう」と関わり方がうまくいった瞬間、利用者さんが笑顔を見せたり、安心して過ごしてくれるのを見ると、大きなやりがいを感じます。

職場は、新人・ベテラン関係なく、何かにつまずいた時も相談しやすく、経験や気づきをお互いに分かち合える環境があります。こうした事業所の環境があるからこそ、日々の仕事に前向きに取り組んでいます。

仕事内容

普段は、利用者さんの日常生活全般のサポートをしています。たとえば、着替えの介助や食事の支援など、生活に関わる幅広いサポートを行っています。また、リーダーという立場でもあるので、新人職員の育成やスーパーバイザーとしての役割も担っています。

利用者さんが安心して過ごせる環境づくりと、職員が働きやすいチームづくりの両方を意識しながら日々取り組んでいます。

職員同士で「こうしたらうまいかも」と会議で話し合い、みんなで支援の方法を考えていける。その積み重ねがチームの成長にもつながっていくのを感じます。

障がい福祉のイメージ

元々、障がい福祉に対して具体的なイメージは持っていませんでした。老人施設から障がい福祉の仕事に転職してみて感じたのは、「利用者さんに寄り添う気持ちは同じだけれど、学びの多さが全く違う」ということです。

障がい福祉では、一人ひとりの特性が本当に違うんです。同じ支援の仕方が通じる人もいれば、まったく違うアプローチが必要な人もいます。「この方法はうまくいったけど、あの人には合わなかったな」と試行錯誤を重ねる毎日で、常に学びがありますね。また、この仕事の魅力は、いろんな視点から介護ができることだと思います。

今後の目標

今後は、一人ひとり障がいの特性が異なる利用者さんに対し、しっかり話を聞きながら、その人に合わせた寄り添いができる介護員を目指したいです。

日々の試行錯誤を通して常に学びを重ね、利用者さんが安心して過ごせる環境を作ることはもちろん、声かけや関わり方の工夫を先輩職員に伝えられる存在になりたいと考えています。さらに、利用者さんの小さな変化にも気づき、支援の質を高め続けられるよう成長していきたいです。



子どもたちの挑戦を支え、笑顔と成長を見守りたい



障がい福祉事業の仕事を選んだきっかけ

大学には進学しようと考えていましたが、特にやりたいことが決まっていませんでした。そんなとき、母から「あなたは障がいのある方に優しいし、特別支援学校の先生を目指してみたら？」と勧められ、社会福祉学部に進学しました。大学での教育実習を通して、もっと小さな子どもの成長を支える仕事がしたいと思い、児童福祉の道へ進むことを決めました。思い返せば、小・中学校の頃に、同じクラスにダウン症の女の子がいて、ずっと友達として付き合い合っていたんです。吹奏楽部でも同じパーカッションパートで、一緒に頑張っていました。彼女のことを「障がいのある子」と意識したことはなく、「友達」として自然に関わっていた経験が、自分の原点になっていると思います。

主なスケジュール(1日)

8:30	出勤
午前	全員で朝の打ち合わせ
	打ち合わせ後、曜日ごとの研修や事務時間
	現場活動(面談、児童たちとのふれあい)
14:00	休憩(1時間)*
午後	事務作業を行う職員と、当番で保育に入る職員に分かれて対応
	退勤

※昼食支援のため、お昼休憩は交代になる

仕事のやりがい

仕事のやりがいを感じるののは、やっぱり子どもたちの成長を実感できたときですね。

運動会や生活発表会、卒園式などの節目で、普段は落ち着かない子が頑張って参加し、堂々とした姿を見せてくれると、「やっていてよかった」と心から思います。

また、以前関わっていた小さな子が中学生になり、今度は下の子たちの面倒を見たり優しく声をかけたりしている姿を見ると、本当に感慨深いです。「あの時の子が、こんなに成長したんだ」と感じる瞬間は、福祉の仕事の大きな喜びですね。卒園式では、思わず涙がこぼれてしまうこともあります。



仕事内容

児童発達支援管理責任者として、2～5歳児を対象とした4クラスに責任を持っています。

子どもたちと日々関わりながら、担任の先生へのアドバイスや支援方法の指導を行っています。また、保護者面談では、ご家庭での困りごとを共有し、解決策と一緒に考えたり、必要に応じて適切な制度につなげる支援も行っています。

さらに、幼児部門のサブディレクターとして、部門全体の運営に携わるとともに、先生方へのスーパービジョン(相談・助言)を通して、職員のサポートにも取り組んでいます。

キャリアアップの過程

福祉系の4年制大学を卒業し、児童指導員の資格を取得しました。

入職後は約5年間、児童指導員として経験を積み、入職3年目頃からはクラスリーダーを任されるなど、比較的早い段階でリーダー職を経験しました。6年目には児童発達支援管理責任者の資格を取得し、デイサービスで担任の先生へのアドバイスや保護者面談の対応などを行う役割に就きました。その後、児童発達支援管理責任者として約5年間経験を重ね、サブマネージャー、マネージャー、グループマネージャーへと段階的に昇進。

そして今年からは、幼児部門のサブディレクターとして、部門全体の運営や後輩職員の育成などを担当しています。

今後の目標

今後は、全体をマネジメントする立場として、もっと広い視点で施設全体を見渡ししながら、先生たちに的確な指示を出せるようになりたいと考えています。

また、若い先生たちに対して、子どもとの関わり方を「なぜそうするのか」という根拠(エビデンス)も含めて伝えられるようになりたいです。

自分の経験をしっかり言葉にして伝え、周りの先生たちが自信を持って子どもと向き合えるよう支えていける存在になりたいと思っています。



こんな資格が役に立つ!



相談・援助系

利用者の相談に応じ、助言・援助を行い、その自立を支援します。福祉に関する情報をわかりやすく説明したり、関係機関との連絡・調整を図ることも仕事です。



社会福祉士

入所系、通所系、児童福祉系の事業所などにおいて、福祉の専門職員として知識・技術が求められる場面で幅広く役に立ちます。

精神保健福祉士

入所系、通所系、訪問系の事業所などにおいて、精神保健の専門職員として知識・技術が求められる場面で幅広く役に立ちます。



保健・医療系

利用者の健康上のケアや医療的ケア・身体の障がいの機能回復(リハビリテーション)などを行う仕事です。仕事内容はそれぞれの職種によって異なります。

看護師・准看護師

入所系のほか、通所系の施設の一部で役に立ちます。医療的ケアが求められる場面では、特に求められる資格です。

理学療法士 作業療法士

入所系、通所系、児童福祉系の事業等においてリハビリを行う場面で役に立ちます。

保育系

家庭保育を補完し、基本的な生活習慣を身に付けさせるなど、子どもの健全な心身発達のため、健康で安全な、情緒の安定した生活ができるように支援します。



保育士

児童福祉系の施設で、幅広く役に立ちます。



介護系

日常生活に支障がある方の心身の状況に応じ、身体面の介護を中心に行います。在宅の場合は家事援助や家族などへの介護指導を行うこともあります。

介護福祉士

入所系、通所系、訪問系の各事業所の介護が伴う場面で幅広く役に立ちます。

栄養系

利用者の健康保持・増進のため、栄養指導を行います。また、施設では給食管理も行います。

管理栄養士

入所系だけでなく、通所系、児童福祉系の事業所の一部でも、食事を提供しています。



※各種資格は例示であり、公認心理士など役立つ資格は他にもあります

よくあるQ&A

Q1. 資格や経験がなくても働けますか?

大丈夫です!入社後に研修や先輩のサポートがあるので、未経験からスタートする方もたくさんいます。安心してチャレンジできます。

Q3. お給料はどのくらいですか?

職場や勤務形態によって異なりますが、初任給は一般的なサービス業と同じくらいです。資格や経験を重ねると手当や昇給があり、しっかりステップアップできます。

Q5. 障がいのある方とは、どうやってコミュニケーションをとればいいですか?

相手の立場に立って丁寧にコミュニケーションを取ることが大切です。耳が聞こえない方には筆談やジェスチャー、言葉による意思疎通が難しい場合には写真やカードを使うなど、工夫することで自然にやりとりできます。

Q2. どんな人が向いていますか?

「人と関わるのが好き」「誰かの役に立ちたい」という気持ちがある方にピッタリです。専門知識よりも、その気持ちが大切です。

Q4. 勤務時間やお休みはどうなっていますか?

職場によって日勤・夜勤など働き方はさまざまです。休日はシフト制が多いですが、希望休をとれるところも多く、プライベートとの両立も可能です。

Q6. 研修やスキルアップの機会がありますか?

多くの事業所で新人研修や定期的な勉強会が行われており、安心して知識や技術を身につけることができます。さらに資格取得の支援制度を設けているところも多く、働きながら成長していける環境が整っています。